

近未来のインプラント治療戦略

-インプラント治療成功のためのパラダイムシフト-

The State-of-the-Art Strategy for Implant Dentistry in Near Future

- Paradigm Shift for the Successful Implant Treatment-



坪井陽一 Total Solution Kyoto インプラント塾 塾頭

Yoichi Tsuboi President Total Solution Kyoto Implant Academy

1984年 北海道大学歯学部卒業、京都大学医学部口腔外科入局

1993-1994年 イエテボリ大学医学部外科学研究所客員教授

2000年 京都大学大学院医学研究科講師、口腔外科外来医長

2004年 京都府国民健康保険国保連合審査会診療報酬審査委員

2007年 Medical Life Quality 顧問、京都大学非常勤講師

2009年 TSK インプラント塾 塾頭 (京都, 福岡, 札幌, 松山)

京都大学博士 (医学)

Clinical Implant Dentistry and Related Research 編集委員

日本顎顔面インプラント学会評議員

日本口腔外科学会認定口腔外科専門医

外科術式と補綴治療の進歩により現在のインプラント治療は、25年前の上顎6か月間、下顎3か月間の治癒期間から、無歯顎症例の多くで即時荷重へと舵がきられている。しかし、画一化したプロトコールによる即時荷重では予後不良例が散見され、中には死亡症例の報告もある。こうした事例は施術者がデジタル技術に振り回されて本来のアナログ知識や技量を放棄した結果とも言える。科学技術がどのように進歩しても、科学的根拠に基づく診査診断プロトコールは不可欠とされ、さらにITとデジタル時代にマッチした各治療ステップで漏れのない連続性のある治療ワークフローを必要とする。現在のインプラント治療と補綴修復治療はアナログ技量とデジタルが融合した治療となっている。換言すると、近未来のインプラント治療の診査診断では従来のアナログ知識および技量という個々の歯科医師が蓄積した財産とデジタル技術の融合がさらに進む。アナログとデジタルをうまく融合できない場合には予後不良や失敗が生じる可能性も高い。一方で、ITやデジタルを導入する場合には多くの歯科医院がその投資や減価償却について困惑躊躇するケースが多い。しかし、今後のCAD-CAM技術の進歩と普及により材料費や技工料は大幅にディスカウントされ、各歯科医院の経営効率に寄与することも予想される。本講演では個々の歯科医院の臨床スタンスにマッチさせたインプラント治療におけるITとデジタル導入の現況を紹介する。近未来の治療ワークフローでは、CT、スキャナー、CCDカメラ、プランニングソフト、CAD/CAM技術などのシステムインテグレーションを不可欠とする。近未来では各歯科医院の臨床スタンスの中にITとデジタル技術を適切に導入し、さらに従来のアナログ技術と知識を融合させることにより、国別や地域別とは無関係に個々の歯科医によって良質な再現性のあるインプラント治療を患者に提供することが可能となる。